

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年12月11日
【四半期会計期間】	第52期第2四半期（自 2023年8月1日 至 2023年10月31日）
【会社名】	株式会社ロック・フィールド
【英訳名】	ROCK FIELD CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 古塚 孝志
【本店の所在の場所】	神戸市東灘区魚崎浜町15番地2
【電話番号】	（代表）（078）435-2800
【事務連絡者氏名】	執行役員管理本部本部長 新部 雅彦
【最寄りの連絡場所】	神戸市東灘区魚崎浜町15番地2
【電話番号】	（代表）（078）435-2800
【事務連絡者氏名】	執行役員管理本部本部長 新部 雅彦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第51期 第2四半期連結累計期間	第52期 第2四半期連結累計期間	第51期
会計期間	自2022年5月1日 至2022年10月31日	自2023年5月1日 至2023年10月31日	自2022年5月1日 至2023年4月30日
売上高 (百万円)	24,396	25,107	49,970
経常利益 (百万円)	729	879	1,564
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	457	568	1,078
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	481	654	1,128
純資産額 (百万円)	28,751	29,480	29,159
総資産額 (百万円)	35,603	36,316	36,046
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	17.21	21.39	40.56
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	80.8	81.2	80.9
営業活動によるキャッシュ・ フロー (百万円)	858	1,407	2,213
投資活動によるキャッシュ・ フロー (百万円)	589	625	1,078
財務活動によるキャッシュ・ フロー (百万円)	1,204	747	1,836
現金及び現金同等物の四半期 末(期末)残高 (百万円)	13,191	13,462	13,423

回次	第51期 第2四半期連結会計期間	第52期 第2四半期連結会計期間
会計期間	自2022年8月1日 至2022年10月31日	自2023年8月1日 至2023年10月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	6.70	9.11

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間（2023年5月1日～2023年10月31日）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う個人消費の持ち直しにより緩やかに回復しているものの、緊迫した世界情勢に加え、中国経済の先行き懸念など海外景気の下振れリスクや円安等の影響による原材料やエネルギー価格の高騰により依然として不透明な状況が続いております。

中食・惣菜業界におきましては、エネルギーや原材料価格の上昇を商品価格に転嫁する動きが継続する中、労働力不足に伴う更なる人件費や採用コストの上昇により、引き続き厳しい状況となっております。

このような状況のもと、当社グループにおきましては、2023年4月期を始期とする3ヶ年の中期経営計画達成へ向け、「商品力・技術力の進化」「新たな顧客接点の拡充」「経営基盤の強化」の3つの基本戦略の取り組みを推進しております。「商品力・技術力の進化」として、高付加価値メニューの商品開発及び提案を行いました。「新たな顧客接点の拡充」として、2022年9月の公式アプリ導入から1周年を迎えたことから、2023年10月に「ロック・フィールドメンバーズアプリ1周年感謝祭」を実施し、当社商品を抽選で贈呈するなど感謝の気持ちを込めた取り組みを行いました。また、「経営基盤の強化」におきましては、2023年8月より、静岡ファクトリー及び企業内保育所「風車の丘保育室」の購入電力を再生可能エネルギーに切り替えることで、ESG基盤の強化と脱炭素社会の実現に取り組みしました。

業態別の売上は次のとおりであります。なお、前連結会計年度末より、「ブランド別」を「業態別」と表示しておりますが、売上高の集計方法に変更はありません。

業態		2023年4月期 第2四半期（連結）		2024年4月期 第2四半期（連結）		対前期比
		売上	構成比	売上	構成比	
R F 1	サラダ	百万円 8,353	% 34.3	百万円 8,336	% 33.2	% 99.8
	フライ	2,778	11.4	3,067	12.2	110.4
	その他惣菜	3,912	16.0	3,898	15.5	99.6
	小計	15,044	61.7	15,301	60.9	101.7
グリーン・グルメ		4,877	20.0	4,949	19.7	101.5
いとはん		1,736	7.1	1,812	7.2	104.4
神戸コロッケ		1,408	5.8	1,469	5.9	104.3
融合		467	1.9	484	1.9	103.7
ベジテリア		400	1.6	441	1.8	110.5
外販（卸）		284	1.2	387	1.6	136.1
その他		177	0.7	259	1.0	146.0
合計		24,396	100.0	25,107	100.0	102.9

2023年4月期第2四半期において「その他」として集計しておりました「外販（卸）」の売上高の金額の重要性が増したため、前連結会計年度末より独立した項目へ変更していることから、2023年4月期第2四半期の数値を変更後の区分に組み替えております。

主な業態別の概況は次のとおりであります。

「ＲＦ１」におきましては、「野菜、“オ”発見。」のメッセージのもと、店頭やブランドサイトにおいて、野菜の魅力の発見と、更なるブランドへの愛着や共感の醸成に取り組みました。８月は「とうもろこし」、９月は「きのこ」、１０月は「れんこん」と、月ごとにテーマとなる野菜を設定し、「甘さ際立つ『ホワイコーン』のサラダ」「帆立と香ばし揚げ舞茸のサラダ ポン酢バターソース」「熊本県産『カワカミ蓮根』のサラダ 柚子の香り」などの提案を行い、売上高は15,301百万円（前年同期比1.7%増）となりました。

「グリーン・グルメ」におきましては、ブランドメッセージである「多彩な食卓、豊かな暮らし」のもと、セレクトショップとして「ＲＦ１」のサラダを中心に、「いとはん」「融合」のサラダや料理の提案を強化いたしました。旬の素材を使用した「カラダに食物繊維 大正長いもとアボカドのサラダ」や「無花果と燻製チキンの和さらだ」「牛いちぼのローストとグリルコーンのサラダ」など、和やアジアの味わいを提案し、売上高は4,949百万円（前年同期比1.5%増）となりました。

「いとはん」におきましては、コクと甘みが美味しく、粒皮が薄くて食べやすい品種のとうもろこし「恵味」を使用した「とうもろこし『恵味』の和さらだ」や、ねぎ油で旨みを閉じ込めた白舞茸を甘じょっぱいピーナッツだれで楽しむ「旬堪能 白舞茸のピーナッツ和え」、琵琶湖産の天然小鮎を満喫できる「琵琶湖産天然小鮎の天ぷら」など、旬の素材を活かした和さらだや料理の提案を行い、売上高は1,812百万円（前年同期比4.4%増）となりました。

「神戸コロッケ」におきましては、「北海道産枝豆のコロッケ」や「宮崎県産里芋のコロッケ」「徳島県産れんこんのコロッケ」など季節素材の食感にこだわったコロッケや、コロッケと買い合わせができる「れんこんのカツ」など、おかずカツの提案を行い、売上高は1,469百万円（前年同期比4.3%増）となりました。

「融合」におきましては、2001年創設からの歩みを振り返り、文化と文化がまざりあう多彩なアジアの食を提供する業態として2023年９月にリブランディングを実施し、ブランドステートメントとロゴマークを刷新いたしました。また、「冷やしトムヤムヌードル」を始めとしたアジアの麺や、季節素材を使用した「鰹とみょうがの生春巻き」などの商品提案を行い、売上高は484百万円（前年同期比3.7%増）となりました。

「ベジテリア」におきましては、ケールと季節素材を組み合わせた「フレッシュケール＆デラウェア」や、旬の限定素材を使用した「津軽の黒ぶどう スチューベン」「長野県小布施の青りんご プラムリー」などの提案を行い、売上高は441百万円（前年同期比10.5%増）となりました。

「外販（卸）」におきましては、冷凍食品ブランド「ＲＦＦＦ（ルッフフ）」及び「神戸コロッケ」について、ＥＣサイトや地域密着型の小売店を中心に、引き続き取引先及び取扱い店舗を積極的に拡大し、売上高は387百万円（前年同期比36.1%増）となりました。

「その他」におきましては、ロック・フィールドオンラインショップにて、2022年９月よりヨーロッパの８つの街を巡ってきた「旅するサラダ」シリーズが好評を博したことから、８月には「サン・セバスチャンを味わうサラダセット」、９月には「ベネチアを味わうサラダセット」、１０月には「ノルマンディーを味わうサラダセット」のリバイバル展開を実施しました。また、連結子会社である岩田（上海）餐饮管理有限公司におきましては、根強い不動産市況の先安観を背景に、厳しい雇用・所得環境にはあるものの、前年同期における上海市のロックダウン影響の反動により、売上高は259百万円（前年同期比46.0%増）となりました。

以上の結果、当社グループの当第２四半期連結累計期間の売上高は25,107百万円（前年同期比2.9%増）、営業利益は840百万円（前年同期比20.0%増）、経常利益は879百万円（前年同期比20.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は568百万円（前年同期比24.3%増）となりました。

なお、当社グループは惣菜事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) 財政状態の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は前連結会計年度末と比べて269百万円増加し、36,316百万円となりました。これは主に、現金及び預金の増加60百万円や、売掛金の減少211百万円、棚卸資産の増加253百万円等による流動資産の増加160百万円及び、有形固定資産の減少47百万円や無形固定資産の増加103百万円、投資その他の資産の増加53百万円による固定資産の増加109百万円によるものであります。

負債合計は前連結会計年度末と比べて51百万円減少し、6,836百万円となりました。これは、買掛金の増加75百万円や、未払法人税等の増加177百万円、賞与引当金の減少176百万円、長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）の減少270百万円、主にリース契約によるその他の増加142百万円によるものであります。

純資産合計は前連結会計年度末と比べて320百万円増加し、29,480百万円となりました。これは主に、配当金の支払による利益剰余金の減少345百万円や、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加568百万円、その他有価証券評価差額金の増加77百万円等によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は81.2%、1株当たり純資産額は1,108円03銭となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べて39百万円増加し、13,462百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、1,407百万円（前年同期比549百万円の増加）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益879百万円、減価償却費816百万円、法人税等の支払額116百万円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、625百万円（前年同期比35百万円の増加）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出448百万円、無形固定資産の取得による支出97百万円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、747百万円（前年同期比457百万円の減少）となりました。これは主に、配当金の支払額346百万円、長期借入金の返済による支出270百万円等によるものであります。

(4) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(5) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(6) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(7) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループの研究開発活動の金額は70百万円であります。なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(8) 経営成績に重要な影響を与える要因

当第2四半期連結累計期間において、新たに経営成績に重要な影響を与える事象は発生しておりません。

(9) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループは、主に百貨店との売上に関する契約等に基づき安定的に売上金の回収を行っております。また、直営店におきましては現金販売が中心となっているため、早期にキャッシュの回収を行うことができ、それにより仕入及び人件費の支払に関する運転資金は売上金の回収から得られたキャッシュから支出可能な状況にあります。

当第2四半期連結累計期間の各キャッシュ・フローの詳しい状況につきましては、「(3) キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	60,000,000
計	60,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2023年10月31日)	提出日現在発行数(株) (2023年12月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	26,788,748	26,788,748	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数 100株
計	26,788,748	26,788,748	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2023年8月1日～ 2023年10月31日	-	26,788,748	-	5,544	-	5,861

(5) 【大株主の状況】

2023年10月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社岩田	兵庫県芦屋市大原町17-18	2,300	8.64
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	1,847	6.94
ロック・フィールド取引先持株会	神戸市東灘区魚崎浜町15-2	1,462	5.49
明治安田生命保険相互会社 (常任代理人 株式会社日本カストディ銀行)	東京都千代田区丸の内2-1-1 (東京都中央区晴海1-8-12)	1,312	4.93
株式会社四国銀行 (常任代理人 株式会社日本カストディ銀行)	高知県高知市南はりまや町1-1-1 (東京都中央区晴海1-8-12)	1,242	4.67
岩田 弘三	兵庫県芦屋市	784	2.94
ロック・フィールド社員持株会	神戸市東灘区魚崎浜町15-2	608	2.28
三菱HCキャピタル株式会社	東京都千代田区丸の内1-5-1	482	1.81
株式会社みなと銀行	神戸市中央区三宮町2-1-1	413	1.55
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区大手町2-6-4	412	1.54
計	-	10,866	40.84

(注) 1. 株式会社岩田は、当社取締役名誉会長岩田弘三及びその配偶者が株式の100%を保有する会社であります。

2. 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)

1,847千株

(6) 【議決権の状況】
【発行済株式】

2023年10月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式 (自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式 (その他)	-	-	-
完全議決権株式 (自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 182,800	-	-
完全議決権株式 (その他)	普通株式 26,589,500	265,895	-
単元未満株式	普通株式 16,448	-	1 単元 (100株) 未満の株式
発行済株式総数	26,788,748	-	-
総株主の議決権	-	265,895	-

(注) 1 . 「完全議決権株式 (その他)」の「株式数」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が2,400株含まれております。また、「議決権の数」の欄には、当該株式に係る議決権の数24個が含まれております。
2 . 「単元未満株式」の「株式数」の欄には、自己株式55株が含まれております。

【自己株式等】

2023年10月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
(自己保有株式) 株式会社 ロック・フィールド	神戸市東灘区魚崎 浜町15番地 2	182,800	-	182,800	0.68
計	-	182,800	-	182,800	0.68

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2023年8月1日から2023年10月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年5月1日から2023年10月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,823	13,883
売掛金	4,401	4,190
製品	66	60
仕掛品	125	324
原材料及び貯蔵品	761	822
その他	220	278
流動資産合計	19,399	19,559
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	9,214	9,094
土地	2,948	2,948
その他（純額）	2,431	2,504
有形固定資産合計	14,594	14,547
無形固定資産		
その他	297	400
無形固定資産合計	297	400
投資その他の資産		
その他	1,778	1,832
貸倒引当金	23	23
投資その他の資産合計	1,755	1,808
固定資産合計	16,647	16,757
資産合計	36,046	36,316
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,190	1,266
1年内返済予定の長期借入金	840	670
未払法人税等	225	402
賞与引当金	784	608
その他	3,074	3,165
流動負債合計	6,115	6,113
固定負債		
長期借入金	200	100
その他	572	623
固定負債合計	772	723
負債合計	6,887	6,836

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年 4 月30日)	当第 2 四半期連結会計期間 (2023年10月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,544	5,544
資本剰余金	5,882	5,887
利益剰余金	17,704	17,927
自己株式	176	169
株主資本合計	28,954	29,189
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	132	210
為替換算調整勘定	71	80
その他の包括利益累計額合計	204	290
純資産合計	29,159	29,480
負債純資産合計	36,046	36,316

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 5 月 1 日 至 2022年10月31日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2023年 5 月 1 日 至 2023年10月31日)
売上高	24,396	25,107
売上原価	10,474	10,659
売上総利益	13,921	14,447
販売費及び一般管理費	13,221	13,607
営業利益	700	840
営業外収益		
受取配当金	5	5
保険配当金	16	17
保険返戻金	0	10
その他	13	15
営業外収益合計	35	48
営業外費用		
支払利息	3	2
為替差損	1	6
その他	1	1
営業外費用合計	6	10
経常利益	729	879
税金等調整前四半期純利益	729	879
法人税等	272	310
四半期純利益	457	568
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	457	568

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2022年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年5月1日 至 2023年10月31日)
四半期純利益	457	568
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	18	77
為替換算調整勘定	5	8
その他の包括利益合計	23	85
四半期包括利益	481	654
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	481	654
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 5 月 1 日 至 2022年10月31日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2023年 5 月 1 日 至 2023年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	729	879
減価償却費	819	816
賞与引当金の増減額(は減少)	119	176
受取利息及び受取配当金	5	5
支払利息	3	2
売上債権の増減額(は増加)	120	211
棚卸資産の増減額(は増加)	153	253
仕入債務の増減額(は減少)	10	74
その他	14	28
小計	1,391	1,520
利息及び配当金の受取額	5	5
利息の支払額	3	1
法人税等の支払額	535	116
営業活動によるキャッシュ・フロー	858	1,407
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	20	21
有形固定資産の取得による支出	382	448
無形固定資産の取得による支出	77	97
長期前払費用の取得による支出	88	56
差入保証金の差入による支出	24	5
差入保証金の回収による収入	3	4
その他	0	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	589	625
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	270	270
リース債務の返済による支出	112	131
自己株式の取得による支出	-	0
配当金の支払額	822	346
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,204	747
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	4
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	933	39
現金及び現金同等物の期首残高	14,124	13,423
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,191	13,462

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 5 月 1 日 至 2022年10月31日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2023年 5 月 1 日 至 2023年10月31日)
支払手数料	3,233百万円	3,378百万円
給料及び賞与	4,678	4,884
賞与引当金繰入額	442	446

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 5 月 1 日 至 2022年10月31日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2023年 5 月 1 日 至 2023年10月31日)
現金及び預金勘定	13,611百万円	13,883百万円
預入期間が 3 か月を超える定期預金	420	421
現金及び現金同等物	13,191	13,462

(株主資本等関係)

前第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 5 月 1 日 至 2022年10月31日)

1 . 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1 株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年 7 月27日 定時株主総会	普通株式	824	31	2022年 4 月30日	2022年 7 月28日	利益剰余金

(注) 2022年 7 月27日定時株主総会決議の 1 株当たり配当額には、記念配当20円が含まれております。

2 . 基準日が当第 2 四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 2 四半期連結会計期間
末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1 株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年12月 2 日 取締役会	普通株式	239	9	2022年10月31日	2023年 1 月18日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間（自 2023年5月1日 至 2023年10月31日）

1. 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり 配当額 （円）	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年7月26日 定時株主総会	普通株式	345	13	2023年4月30日	2023年7月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間
末後となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり 配当額 （円）	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年12月5日 取締役会	普通株式	239	9	2023年10月31日	2024年1月18日	利益剰余金

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間（自 2022年5月1日 至 2022年10月31日）及び当第2四半期連結累計期間
（自 2023年5月1日 至 2023年10月31日）

当社グループは、惣菜事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

（収益認識関係）

当社グループは惣菜事業の単一セグメントであるため、顧客との契約から生じる収益（全て一時点で移転される
財又はサービス）の分解情報については、以下のとおり業態別に記載しております。

前第2四半期連結累計期間（自 2022年5月1日 至 2022年10月31日）

（単位：百万円）

	業態別売上高								合計
	R F 1	グリーン・ グルメ	いとはん	神戸コ ロッケ	融合	ベジテ リア	外販 （卸）	その他	
顧客との契 約から生じ る収益	15,044	4,877	1,736	1,408	467	400	284	177	24,396

当第2四半期連結累計期間（自 2023年5月1日 至 2023年10月31日）

（単位：百万円）

	業態別売上高								合計
	R F 1	グリーン・ グルメ	いとはん	神戸コ ロッケ	融合	ベジテ リア	外販 （卸）	その他	
顧客との契 約から生じ る収益	15,301	4,949	1,812	1,469	484	441	387	259	25,107

前第2四半期連結累計期間において「その他」として集計しておりました「外販（卸）」の売上高の金額
的重要性が増したため、前連結会計年度末より独立した項目へ変更していることから、前第2四半期連結累
計期間の数値を変更後の区分に組み替えております。

また、前連結会計年度末より「ブランド別」を「業態別」と表示しておりますが、売上高の集計方法に変
更はありません。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 5 月 1 日 至 2022年10月31日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2023年 5 月 1 日 至 2023年10月31日)
1 株当たり四半期純利益	17円21銭	21円39銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	457	568
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益 (百万円)	457	568
普通株式の期中平均株式数 (株)	26,593,199	26,601,229

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

2023年12月 5 日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額.....239百万円

(ロ) 1 株当たりの金額..... 9 円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2024年 1 月18日

(注) 2023年10月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年12月 4 日

株式会社ロック・フィールド

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

神戸事務所

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

西方 実

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

福井 さわ子

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ロック・フィールドの2023年5月1日から2024年4月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2023年8月1日から2023年10月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年5月1日から2023年10月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ロック・フィールド及び連結子会社の2023年10月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。